

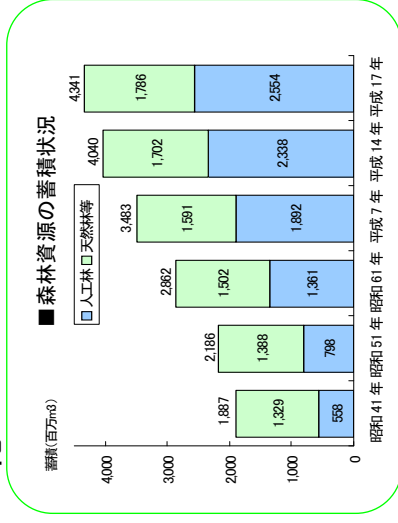
バイオマス利活用技術

参考

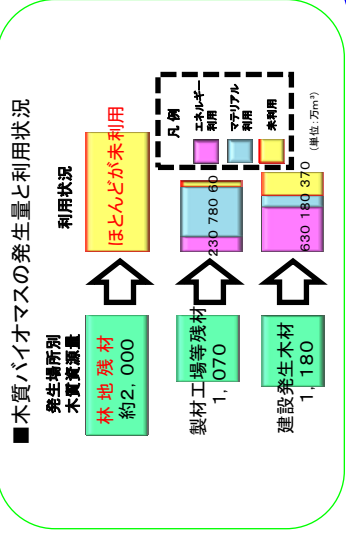
脱石油・低炭素社会の実現のため、我が国に最適なバイオマスの生産から利活用までの技術を開発

【現状】

- ・バイオマスガス化技術およびバイオエネルギー合成技術の開発
- ・我が国の森林は人工林を中心に年間約8千万m³の蓄積が増加しており、現在の総蓄積は約44億m³



- ・年間4千万m³以上の木質バイオマスが発生する一方、利用状況は林地残材を中心に低位

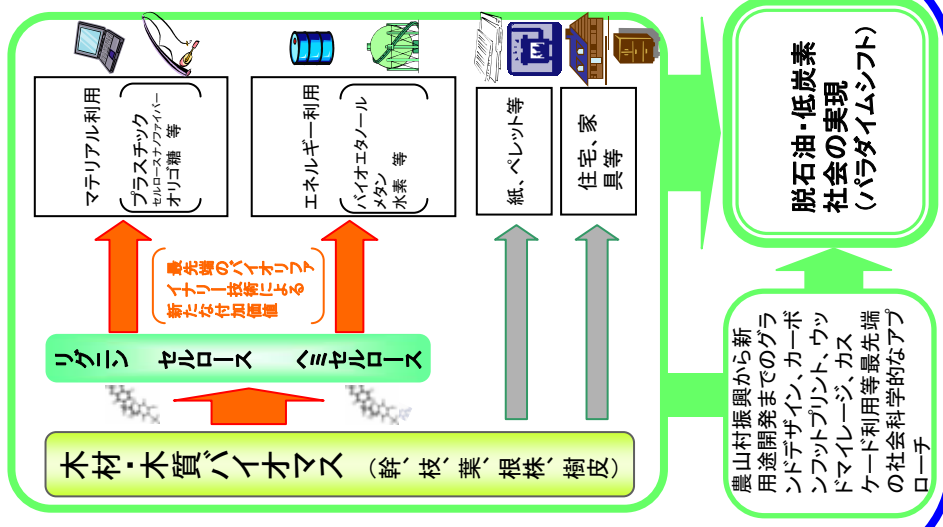


【研究の主な具体例】

- ・再生可能なバイオマス生産・管理技術の開発
- ・バイオマスのカスケード利用システムの開発
- ・バイオマスマテリアル合成技術の開発
- ・バイオエネルギーの効率的利用技術の開発
- ・効率的変換のための触媒の開発

【産業化の姿】

- ・バイオエネルギーやマテリアル利用等木質バイオマスのファイナリシシステムの構築



地球温暖化対策推進費（組替新規）

【平成21年度概算額 157（98）百万円】

対策のポイント

藻場・干潟等の炭素吸収源評価を実施するとともに、沿岸・内湾域における地球温暖化の影響を評価する手法及び温暖化に適応した養殖品種の開発を実施します。

（背景）

- ・ 地球温暖化は加速的に進行しており、水産分野においても二酸化炭素排出削減策のみならず、炭素吸収源対策及び適応策に積極的に取り組む必要。
- ・ 沿岸・内湾域においては、外海水や陸域及び気象の影響を直接的に受けやすいことから、沖合域に比べて早期に地球温暖化の影響が顕在化するおそれ。
- ・ 養殖の分野では、成長の鈍化や新たな疾病の発生等が確認されており、将来的に大きな影響が発生するものと予想。

政策目標

低位水準にとどまっている水産資源の回復・管理の推進

<内容>

1. 藻場・干潟等の炭素吸収源評価と吸収機能向上技術の開発

藻場・干潟等の炭素吸収機能の評価手法を開発するとともに、炭素吸収量の全国評価及び炭素吸収機能を維持向上させる管理技術の開発を行います。

〔委託先：民間団体等〕

2. 地球温暖化による沿岸漁場環境への影響評価・適応技術の開発

（1）自動観測ブイを用いた沿岸漁場環境モニタリングによる温暖化影響評価手法の開発

観測ブイを用いて沿岸漁場環境の挙動を精密かつ連続的に把握し、地球温暖化が養殖業等に及ぼす影響を的確に評価する手法を開発します。

〔補助率：定額
事業実施主体：民間団体等〕

（2）分子生物学的手法を用いた有害・有毒プランクトンの迅速・簡便モニタリング手法の開発

有毒プランクトンの出現動向把握のための迅速・簡便モニタリング手法を開発します。

〔委託先：民間団体等〕

(3) 温暖化に適応した養殖品種の開発

地球温暖化によりもたらされる養殖業に対する悪影響を防止するため、DNAマーカー等のゲノム情報を活用して高水温耐性等を有する養殖品種の評価・選抜等を行います。

〔委託先：民間団体等〕

担当課：水産庁研究指導課
担当班：企画調整班 高山
03-3502-0358(直)
先端技術班 宇野
03-3591-7410(直)

地球温暖化対策推進費(組替新規)

背景

- IPCC(気候変動に関する政府間パネル)報告書によれば、地球温暖化は加速的に進行しており、これに伴う海洋の高水温化、酸性化などが発生すると予測。我が国水産業にも深刻な影響を及ぼすことが懸念。
- 水産資源の回復及び水産物の安定供給の確保の観点から、地球温暖化防止のための二酸化炭素排出削減策のみならず**水産分野における吸収源対策及び地球温暖化適応策**にも積極的に取り組んでいく必要。

水産分野の吸収源対策の推進

藻場・干潟等の炭素吸収源評価と吸収機能向上技術の開発(新規)

- 藻場・干潟等の炭素吸収機能の評価手法の開発及び炭素吸収機能を向上させる藻場管理技術の開発
- 全国調査による我が国藻場・干潟の炭素吸収量の
全国評価の実施



水産分野(藻場・干潟・海洋)における
二酸化炭素吸収源評価を実施

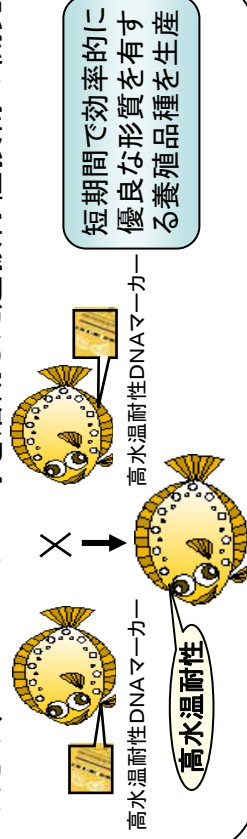
我が国の温室効果ガス削減約束の達成に貢献

地球温暖化適応策の推進

地球温暖化による沿岸漁場環境への影響評価・適応技術の開発(拡充)

- 自動観測ブイを用いた沿岸漁場環境モニタリングによる温暖化影響評価手法の開発
- 分子生物学的手法を用いた有害・有毒プランクトンの迅速・簡便モニタリング手法の開発

○高水温耐性、耐病・耐虫性等を有する養殖品種の開発のため、DNAマーカー等を活用した選抜育種技術の開発



温暖化影響評価手法・適応技術の開発